

# スギ花粉症の舌下免疫療法

やまなし

医療最前線

県立中央病院から

《 72 》

疫療法が行われていたが、頻回な通院が必要なほか、重篤なアナフィラキシーショックを起こす可能性があり、普及しなかったという。

一方、舌下免疫療法はスギ花粉のエキスを舌の下に直接

垂らし、2〜3分含んだ後に飲み込む。注射の痛みはなく、自宅で投与できるため頻繁に通院する必要もない。副作用の低減も図れる。

ただ効性はなく長期間の服用が必要。わずかだが効果

の出ない人もいるという。口腔内のかゆみや腫れ、咽頭の刺激などの副作用が出る可能性もある。副作用を避けるためには「服薬直後の食事や飲

酒は避ける」などの対処法を守ることも必要だ。

この治療法の成功の鍵は「患者さんが受け身ではなく、積極的ににかかわること」と霜村医師。「少しずつ薬液を増やしていく服用方法など、ルールをしっかり守らないと効果が発揮されない」と話す。

医師の指導の下、治療内容を理解し、適正に使用することが大切だ。また処方講習を受けて登録された医師に限られていて、医師にも患者への説明の必要性を十分理解することが求められている。

「鼻アレルギー診療ガイドライン2013」によると、山梨県のスギ花粉症患者の割合は44・5％と全国で最も高く、花粉症全体では48・7％と半数近くを占めている。

「患者と医師が手を取り合い、県内の多くの患者さんの負担軽減に努めたい」と霜村医師。治療薬が保険適用されれば、県立中央病院でも処方される予定だ。

第2、4木曜日に掲載します

県立中央病院耳鼻咽喉科科長の霜村真一医師によると、免疫療法とはアレルギー反応を引き起こす抗原を少量体内に入れることで、抗原に対する過剰反応を減らす方法。これまでにも皮下注射による免

花粉症の治療といえば、症状を和らげる対症療法が中心だが、体質そのものを変えることで根治も期待できる「舌下免疫療法」が今秋にも始まる。口に薬液を含む新タイプのスギ花粉症治療薬が保険適用される見通しで、長年悩まされてきた患者にとって朗報となりそうだ。



霜村 真一  
耳鼻咽喉科科長

## 適正な薬液服用で根治も



スギ花粉症の  
舌下免疫療法

薬液

薬液を舌の下に垂らし、  
2分間口に含んだ後、飲み込む